

JFAによる修正（誤植、表現の変更など）

\*表現の変更や誤植等による修正のため、条文の理解、解釈を変更するものではなく審判員による事象の見極めや、判定基準に影響を及ぼすものではありません。

2024/25ページ	2024/25 競技規則（修正前）	2024/25 競技規則（修正後）	修正理由
113	退場となる反則 上から3つ目●： ・フリーキックで罰せられる反則を行い、全体的にその反則を行った競技者のゴールに向かって動いている相手競技者の得点または決定的な得点の機会を阻止する（以下の「得点または決定的な得点の機会を阻止」に規定される警告の場合を除く）。	・フリーキックで罰せられる反則を行い、 <b>得点、または全体的な動きが</b> その反則を行った競技者のゴールに向かって動いている相手競技者の <b>得点または決定的な得点の機会</b> を阻止する（以下の「得点または決定的な得点の機会を阻止」に規定される警告の場合を除く）。	英語版では”denying a goal or an obvious goal-scoring opportunity to an opponent whose <b>overall movement</b> is towards the offender’s goal by an offence punishable by a free kick (unless as outlined below)”となっている。 ・overall movementは、「得点」には掛かっていないので「得点」の表記を最初にすべきである。 ・overall movementが適切に訳されておらず「全体的な動き」とすべきである。
115	チーム役員 テクニカルエリアに入ることのできる交代要員、交代して退いた競技者、退場になった競技者またはチーム役員による反則があり、その反則を行った者を特定できない場合、テクニカルエリア内にいる上位のコーチが罰則を受ける。	テクニカルエリアに入ることのできる <b>者</b> （交代要員、交代して退いた競技者、 <del>退場になった競技者</del> またはチーム役員）、 <b>もしくは退場になった競技者</b> による反則があり、その反則を行った者を特定できない場合、テクニカルエリア内にいる上位のコーチが罰則を受ける。	・英語版では”Where an offence is committed by someone from the technical area (substitute, substituted player, sent-off player or team official)”となっているが、日本語版ではsomeoneを訳しておらず（ ）も使用していない。また、「テクニカルエリアに入ることができる者」として「退場になった競技者」が含まれていることは適切ではない。英語版では記されているが、日本語版ではより適切な表現にした。
<b>審判員のための実践的ガイドライン</b>			
193	(GK)の表記が「攻撃側競技者のアイコン」の背後に置かれている。	「ゴールキーパー」の文字の右横に「(GK)」を置く⇒ゴールキーパー (GK)	2020/21版までは適切な位置に置かれていたが、「ゴールキック」と前のページの「得点が得点でないか」のフィールドの表記が英語版と同じではなかったため、2021/22版では同じフィールドとなるように修正した。修正時に、競技者、主審のアイコンとその説明の部分を動かしたが、「ゴールキック」において「(GK)」が元の位置に残ってしまい、その状態が現在に至っていた。
215	…20～25秒以上かけるべきではない。	…20～25秒 <b>以上</b> かけるべきではない。	2024/25版制作時に、「…20～25秒以上かけてはならない。」を英語表記に合わせて「…20～25秒以上かけるべきではない。」と修正したが、制作過程で「以上」の「上」が削除されてしまったため「上」を加筆した。